

ナノ学会からの新型コロナウイルス感染症についての声明

新型コロナウイルス（COVID-19）の感染が世界中で広がっています。この危機を乗り越えるべく、医療の現場で COVID-19 と闘っておられる方々、それを支える関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

人類の歴史を振り返ると、スペイン風邪（1918 年）やアジア風邪（1956 年）など、我々は古くから感染症の世界的大流行（パンデミック）に苦しめられてきました。近年、世界をまたぐ交通輸送手段が飛躍的に発展した結果、パンデミックが頻繁に起こるようになってきました（2002 年～SARS、2012 年～MERS）。そして、昨年流行が始まった COVID-19 は、スペイン風邪以来の猛威を振るっています。

COVID-19 は RNA に遺伝情報をコードする RNA ウイルスであり、SARS や MERS と同じコロナウイルス科に分類されます。COVID-19 の封じ込めに成功したとしても、今後、新たなコロナウイルスの発生の恐れがあります。したがって、有効なウイルス対策を講じることが急務ですが、ウイルスが小さく（100 ナノメートル程度のサイズ）、かつ変異し続けることが、その予防・診断・治療を困難にしています。これらの困難を克服するためには、科学技術の進歩が必要不可欠です。

ナノ学会は、ナノ構造・物性部会、ナノ機能・応用部会、ナノバイオ・メデイシン部会の 3 部会を軸として、ナノ科学技術の深化と発展を支える活動を行ってきました。ナノメートルサイズの COVID-19 は、まさにナノ学会が培ってきた概念や技術を応用できる対象です。ナノ学会では、ナノフィルター、ナノ触媒、ナノイメージング、ナノ治療薬、ナノドラッグデリバリーシステムなどの技術を駆使して、COVID-19 を含めたウイルス対策に貢献したいと考えております。

私たち研究者がサイエンスの研究に没頭できるのは、平和で豊かな社会環境のおかげです。ナノ学会では、会長・理事をはじめ全ての会員が、このことを再認識し、この世界的災厄に対し何ができるかを真剣に考え、その克服に向けた社会的責務を果たすべく努力を続けます。

ナノ学会会長 佃達哉